

防災地質研究所ニュースレター

2018.05

§ 耶馬溪崩落事故

2018年4月11日、大分県の耶馬溪で発生した土砂の崩落事故は3世帯6人が犠牲となり大きく取り上げられました。

今回の現場は幅200m高さ100m奥行200mに渡って崩落が起きました。

耶馬溪は日本三大奇景として多数の絶景が存在していることでも有名な地域です。当該地は新生代第四紀の火山活動による凝灰岩（ぎょうかいがん）や凝灰角礫岩（ぎょうかいかくれきがん）、熔岩などからなり、風雨による台地の侵食によって形成されたと考えられています。この地区は土砂災害の危険があるとして、県が3年前から土砂災害特別警戒区域に指定されていました。発生の前日は激しい雨なども降っておらず、国や大学の専門家チームは斜面の岩盤風化や亀裂、地下水の水位上昇が原因との見解を示しました。こういった災害の前兆としては、

- ①湧水が出てくる。または濁ったり止まったりする。
- ②崖にひび割れができる。
- ③小石等がパラパラと落ちてくる。
- ④地鳴りがする。などが考えられます。

これらの前兆に気が付いて難を逃れた近隣住人の方もいらっしゃったようです。



※上記写真は西日本新聞

事前に異変に気づき、行動に移せるか否かが生死の境目を分ける事になると考えます。このような災害が少しでも無くなるように尽力していかなければならないと思います。

○IoT 時代を生き抜くには

IoT と各業界の取り組みがかなり密接なものとなってきた昨今、建設業の i-construction (アイコンストラクション) 推進以外にもいろいろな業界の記事が目に入ります。最近の記事でも Softbank が駐車場業務に進出し、スマートホンで空き駐車場を確認したり決済できるような事業を展開という記事があったり、大手デパートの PALCO では試験的に Amazon Echo (スマートスピーカー) による接客サービスを始めるとあったり、また歯科技工士の減少の反面、3D プリンターを使った歯の技工物などを製作する試みが行われている、などの記事を日常的に見ることが出来ます。これらの技術的取り組みにより人件費等の経費の削減や利便化のメリットがある反面、機械が人間から仕事を奪うといったデメリットもあるといえますが、どんどんこういった方向へ進んでいくのは間違いないと言えるでしょう。これからの私達の仕事は多くの事が IoT や AI で可能となる反面、ある部分の仕事は機械に奪われ急速なスピードで無くなっていく方向にもあります。それは少子高齢化など労働力の減少などの要因もあり、利点であり欠点とも言えます。これからの企業は常に先を読み新しい事を取り入れながら、変化に対応していかなければ旧態以前の考えでは生き残っていく事は難しいのかもしれませんが。温度を自動で保つお風呂に浸かりながら防水のスマートホンで映画を見たりする事が普通にできる生活になったなんて SF 映画みたいな時代です。古き良きものを無くさずに新しきものも柔軟に取り入れ、常に変化に対応出来る存在である事こそが、どの時代も生き抜いていく秘訣と言えるでしょう。



※上記写真は歯科技工に用いられる 3D プリンターと歯科技工物。
(3DP id.art の記事より)

株式会社 防災地質研究所
〒892-0816 鹿児島市山下町 12-8-405
Tel & Fax : 099-239-6122 Email : info@dpgi.jp
URL : <http://www.dpgi.jp/>